

「事務手続き体験記」 その3

新年を迎えて、法定調書作成に勤しみ、市町村分寄付者名簿を作成しているうちに、あっという間に行政の年度末がやってきます。委託金や助成金・補助金事業の数だけ、決算報告書の作成業務があるわけで、市や県、また提出する担当課によっても報告様式はさまざまです。事業開始前に確認し、その様式にあった計上方法を取らなければなりません。日頃から、コツコツ積算していくほか、乗り切る術はありません。ですから、普段の会計処理がいかに重要かというお話をしたいと思います。

当センターは現在、7つの委託事業と1つの助成金事業を遂行しております。それぞれが単体で行っているわけではなく、3つの事業所が複数の事業を掛け持

ちしている状態です。ですから、計上される経費がどの事業のものか、明確に仕訳しておかなければなりません。また、税法上と公法上の解釈に違いがあるため、それも気をつけなければなりません。日頃の会計処理をきちんとしていれば、年度末は積算して完了となりますが、忘れてはいけないのが「未収金」「未払金」の計上です。計上し忘れて、貰うべき委託料が貰えなかったということがないよう気をつけましょう。

NPO法人の公金不正使用が問題となっている昨今、年度代わりは何かと忙しい時期ですが、1つ1つ適正・確実を心がけ会計業務に携わりたいものです。
(ふくしまNPOネットワークセンター事務局
チーフ 根本 靖子)

NPOで社会貢献 ～企業からNPOへ～

私が初めて「幸せってなんだろう」って本当に深く真剣に考えたのは、今から思えば35年ほど前のこと。ネパールへのトレッキングで、目的のヒマラヤではなく幼い子供達の目の輝きばかりを写真に撮っている自分に気づいた時だった。四・五歳の子供が赤ちゃんを背負い裸足で畑仕事をしている姿はボロボロで貧しさそのものであったが、時折見せる笑顔の中のその眼の美しさは、日本の子供には無いものだった。「かれらは、本当の幸せをもっているのかもしれない」と思った。「もうサラリーマンなんてやってられない」とさえ思ったが、弱い私は、帰ってきた翌日から会社人生を概ね幸せに？ その後も過ごしてきた。福島に来てからも何度も幸せについて考えさせられる出来事があったが、つい最近では大震災。多くの悲しみの中に幾つもの幸せを見つ

けることが出来た。企業の存在意義を私自身、今一度問い直すきっかけとなったのも大震災だった。

そして今、企業を退任して福島に残ってNPOのお手伝いを始めた。14年間単身赴任する中でお世話になった恩返し気持もあつた。でも最大の理由は、『人』。私は『人』が好きで、『福島』が好きで、『福島の人』が好きだから、もう少し福島に居たかったのだ。そしてNPOは、人から感謝される活動。人は感謝されることで幸せを感じる。だからNPOの活動は、自分が幸せになれる活動だ。私がいま福島に居るのは、きっと、単に自分が幸せでいたい
(ふくしまNPOネットワークセンター
常勤顧問 深澤 秀樹)



(ふくしまNPOネットワークセンター
常勤顧問 深澤 秀樹)

編集後記

まだ春の足音が小さいこの時期に、各事業所は年度末の追い込みの時期に入って繁忙を極めております。

間もなく東日本大震災から6年を迎えますが、我々も日々変わる環境に対応していけるよう、忙しいなかですがなお一層努力していきたいと思っております。

(ふくしまNPOネットワークセンター常務理事 菅野 真)

●編集・発行
認定特定非営利活動法人
ふくしま NPO ネットワークセンター
〒960-8068
福島市太田町 12-30 マルベリービル 6階
TEL 024-572-7930 FAX 024-572-7931
E-mail center@f-npo.jp URL http://www.f-npo.jp/



- 福島県より受託、運営している施設—
●ふくしま地域活動団体サポートセンター
〒960-8043 福島市中町 8-2 福島県自治会館 7F
TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741
URL http://www.f-npo.jp/saposen/
E-mail saposen@f-npo.jp
- 福島市の指定管理制度で運営している施設—
●福島市市民活動サポートセンター
〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち3F
TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560
URL http://www.f-ssc.jp
E-mail f-ssc@bz01.plala.or.jp
- 福島市より受託、運営している施設—
●まちの駅 ふくしま情報ステーション
〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま 1F
TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027
URL http://www.machi-fukushima.jp
E-mail info@machi-fukushima.jp



認定 NPO 法人 ふくしまNPOネットワークセンター通信 No.64

のっぽの手

◆◆◆◆ 注目記事 ◆◆◆◆

- 「ふくしま元気市民活動助成金」「第3回ののっぽ基金助成」決定！
 - できました！ まちの駅MAP
 - ふくしま市民活動フェスティバル報告
- 2017年 3月発行

「ふくしま元気市民活動助成金」「第3回ののっぽ基金助成」決定！ ～採択団体紹介および事業紹介～

昨年11月に2016年度「第8回ふくしま元気市民助成金」の審査があり、その1週間後には「第3回ののっぽ基金助成金」の審査があり、下記の団体が選ばれました。

「ふくしま元気市民助成金」については、付帯意見が出された団体があるなど、地域に密着した取り組みに期待する審査委員の皆様の気持ちを反映する結果となりました。

また、「のっぽ基金助成金」は、本来ですと2団体への助成を考えておりましたが、長時間の議論の末、1団体のみへの助成と決まった経緯がありましたことを報告致します。

助成を受けられた団体の皆様には、この助成金を有意義に使って頂きたいと思っております。

【のっぽ基金助成採択団体】

「いいたてパソコンクラブ」ホームページ運営支援事業

分散してしまう村民のコミュニティ維持を目的としたホームページを立ち上げ、村民が主体性を持って情報発信し、定期的に更新することで、それによる生きがいづくりと避難指示解除後の新しい生活への不安軽減を図る。

特定非営利活動法人 シャローム

【ふくしま元気市民活動助成金採択事業】

猪苗代湖有機性資源を回収し、バイオマス燃料を作ろう！

枯れてしまった水生植物(有機性資源)を回収しバイオマス燃料作りを行うことで、猪苗代湖の水質汚濁の防止を図ると共に、化石燃料の消費の抑制を図る。

特定非営利活動法人 江湖村

車いす用体重計購入事業

車いす生活を余儀なくされている方の体調管理のため体重測定が必要だが、介護・介助しながらの測定では転倒などのリスクもあり、「車いす用体重計」の必要に迫られていた。導入により、利用者・職員の負担軽減を図る。

特定非営利活動法人 CHANT

小田山の歴史継承事業

豊富に遺跡がある会津若松市の「小田山」に、大河ドラマ「天地人」以降訪問する人も増えており、新しい案内板の増設をし、里山と歴史的遺構の周知を図る。

特定非営利活動法人 はるなか

(ふくしまNPOネットワークセンター
常務理事 菅野 真)

～福島市民活動フェスティバル報告～

昨年、11月26日(土)、27日(日)に開催した市民活動フェスティバルは、チェンバおおまちの1階と3階をつないで開催した。

テーマは「協働の文化創造～コラボで育てる創造の種～」だ。今回は「市民活動団体の他に企業の参加も複数あったこと」と、「寄付テーマとしたところがいくつかあったこと」が特徴の1つと言えるかもしれない。

並べられたブースは団体や企業の活動紹介や作品・販売される商品が並べられ、寄付付商品などの寄付コーナー、寄付みくじコーナーも人気となっていた。さらに、会場内をもっと楽しみたい方のための会場見学ツアーは今年も好評だ。

その他、講演会や講座、映画鑑賞、ステージも楽しむことができ、「協働」をテーマとしたワールドカフェは、

笑い声が響き、楽しく学び、自己をみつめる時間となった。

締めくくりは、福島と関わりのある著名人や企業から頂いた商品のオークションだ。1つ1つの商品に多くの手があがり、参加者はおおいに楽しんだ。

今回の参加団体34団体、来場者、スタッフを含めた参加者が428名と少なめであり、広報など課題も残されているが、交流を深めたあたたかな、楽しいイベントとなったと感じている。皆様、本当にありがとうございました。
(ふくしま市民活動フェスティバル 2016 実行委員会
事務局長 内山 愛美)



できました！ まちの駅案内MAP

まちの駅ネットワークふくしまが立ち上がってから5年目となる今年「まちの駅案内マップ」が完成しました。立ち上げ時12駅だったまちの駅も現在20駅となり、隔月行われている駅長会議も24回を数えました。「まちの駅案内マップ」を作るにあたっては「平成28年度福島市市民活動活性化支援事業補助金」を受け1000部作成しました。まちの駅で補助金を受けての事業は2度目となり、節目となる5年目に、また補助金を受けてマップ作成事業ができたことは感慨深いものがあります。



まちの駅駅長さんそれぞれが事業をされている状況で、まちの駅事業を何をどのように展開して進めていったらいいのか「まちの駅ネットワークふくしま」で模索しているところでしたが、「駅長会議」の席で、何かの助成金に申請してまちの駅マップを作ったらどうかとの助言を頂き、会が動き始めました。

どんな助成金があるのか、申請にあたってはどんなことが必要でいつまでに何をどのようにして提出しプレゼンはどうしたらいいのか事務局ではわからないことだらけでした。日が過ぎていく中、会長が、ネットワークセンターの齋藤常務理事から勧められた「福島市市民活動活性化支援事業補助金」の申請をしましょうと連絡があり、申請申込期限が迫る中、齋藤常務に指導いただき提出してプレゼンテーションを経て補助事業を受けることが出来ました。マップの叩き台となるマップ(イメージ)見本を情報ステーション前所長川浪さんが作成したものを基に駅長会議を進めていくとだんだん駅長さんの出席が増えて、積極的に案も出てくるようになり会全体でより良い「まちの駅案内マップ」を作るのだ！という機運が盛り上がり連帯感も生まれてきました。

3度の校正を経て完成したマップはそれぞれのまちの駅に配置されました。「まちの駅」の役割と「まちの駅ネットワークふくしま」が広く周知されるよう広報を進めていくところです。

(ふくしま情報ステーション 所長 齋藤 美左子)

「愛する郷土のために」



2014年に作田副理事長よりお声かけて頂き、ふくしまNPOネットワークセンターの理事となり早や3年が過ぎようとしています。

私は28歳から41歳まで(公社)福島青年会議所に所属しておりました。在籍中は「人づくり」「まちづくり」を中心に運動してまいりました。特に「まちづくり」においては愛する郷土のために何が出来るかを真剣に考え行動してきました。2009年から福島駅の発着メロディーが変わったことをご存じだったでしょうか？古関裕而先生の「栄冠は君に輝く」へと変更となりました。福島へ観光来られた方々をおもてなし、そして故郷を離れ暮らす方々が故郷へ帰ってきた喜び、また福島を忘れず頑張ってもらいたい

という思いで、福島青年会議所、JR福島駅、福島市役所と連携をはかり完成されました。

今後は今まで経験してきたことを、この福島でこれから頑張っていこうという団体の皆様をサポートできればと考えております。まだまだ分からないことばかりですが精一杯頑張っていきますので御指導御鞭撻の程、宜しくお願ひ致します。



(ふくしまNPOネットワークセンター 理事 吉川 隆一)

～『スタ会』に寄せて～



「スタ会」を終えて I —組織のコミット力を上げる—

昨年11月から3回、ふくしまNPOネットワークセンターのスタッフ向けの研修をお引き受けしました。目的は自組織のミッションを確認し、より成果が出せる組織を作るために、スタッフの力を向上することでした。スタッフと目的を共有したうえで、より会議にコミット感をもってもらうために、これまでの戦略会議としていた名称も再度自分たちの会議として「スタ会」と改名してのスタートです。

今回の3回の研修では、個人としてなぜこの組織で仕事するのか、組織を通して成し遂げたい事を棚卸し、そのために必要なチカラやノウハウを確認し、最終日にはふくしまNPOネットワークセンターのスタッフとして、取り組むべき事業企画立案をしていただきました。企画書を書くということに慣れてはいませんが、それぞれの企画は課題をとらえ、内容はいい視点が入っているものでした。ぜひ1つでも実現できることを期待しています！

スタッフが互いの業務を把握、現場の課題を共有する、連携や相乗効果を検討する、ボトムアップの仕組みを作ることで、組織の力や成果につながります。日々、目の前の仕事をこなすことだけでは、組織全体のこともなかなか考えられなくなります。定期的にスタッフが集まる場を作り、横のつながりと0から1を作ることをみんなで考える。これからも必要とされる組織となるために、「スタ会」を継続し、役員と一緒にベクトルを合わせてやるべきことを議論していただきたいと思います。

最後に、業務の時間を調整しながら、「スタ会」に参加されたスタッフのみなさま、参加集約や会場準備などご協力いただきまして、ありがとうございました。

(伊藤 浩子)



「スタ会」を終えて II

スタ会が終わった。ん、スタ会って何だ？ 旧称は、ふくしまNPOネットワークセンター戦略会議。2016年8月に理事長肝煎りで立ち上げた職員有志の会議。参加の呼びかけ文にはこう書かれている。

「(ネットワークセンターも)設立から16年を経て、組織も業務も当初とは比べものにならないくらい大きくなりましたが、同時に組織としての問題や限界も見えてきました。たとえば、ネットワークセンターがめざすべき社会のビジョンをどう描くのか、ミッションはどうあるべきなのか、具体的な事業をどう展開すればいいのか、人とお金を中心とする組織基盤をいかに強化すべきなのか、組織運営(マネジメント)を強化するにはどうすればいいのかなどなど、取り組むべき課題は山積しています。そこで、いまこのときの、そしてこれからの10年、15年を見据えたステップアップの課題を整理し、その解決策を考えるために」職員有志の会議を立ち上げるのだ、と。

月1回のペースで前半3回を戦略会議の名称で、後半3回については、せんだい・みやぎNPOセンターの前事務局長である伊藤浩子さんをコーディネータに迎え、名称もスタ会とあらため、開催してきた。

各部署の職員有志が同じテーブルについて語り合う、ネットワークセンターで初めての職員参加の試み。組織を担う一員であることの自覚と仕事への動機づけが少しでも高まってくれたとするならば、こんなうれしいことはない。最終回に提出してもらった事業企画案も含めて、これは、はじめの一步なのだから。

(ふくしまNPOネットワークセンター 理事長 牧田 実)



ネットワークセンター事業報告:

ふくしま情報ステーション～「まちの駅案内マップ」報告書～

～福島市市民活動活性化支援事業

補助金申請書提出～

(福島市市民安全課市民協働係)

平成28年4月15日提出

- 事業名 まちの駅案内マップ作成事業
- 部門名 ファーストステップ事業
- 事業目的

まちの駅は、地域住民や観光客等の来訪者が求める地域情報を提供する機能を備え、人と人との出会いと交流を促進する空間施設です。福島市内には現在15箇所(4月)の施設があり、「まちの駅ネットワークふくしま」としてネットワークを構築し、情報の共有やイベント参加を通して活動しています。

しかし、認知度の低さから「まちの駅」の機能とその設置場所がどこにあるのか周知されていないことから、せっかくの機能が活用されていません。

そこで今回は、福島への来訪者や地域住民などに広く「まちの駅」知っていただくツールとしてまちの駅設置場所を明示した『案内マップ』を作成したいと考えました。

マップは福島を訪れた方々や市民に安心して福島市内の散策をしていただくために、情報をわかりやすく可視化させます。まちの駅の機能発揮と地域活性化をめざすことを目的として事業を行います。

～プレゼンテーション～

ファーストステップ部門
6団体中1位で補助対象

平成28年5月14日

(市民会館 第2ホール)発表者 会長 福地雅人



○まちの駅ネットワークふくしま

計20点中16,3点

平均点13,2点

～経過～

まちの駅ネットワークふくしま

■マップ作製事業協議

- ・第20回駅長会議(平成28年3月28日)
- ・平成28年度定時総会(平成28年5月23日)
まちの駅案内マップ作成事業収支決算(案)
- ・第21回駅長会議(平成28年7月25日)
- ・第22回駅長会議(平成28年9月12日)
- ・第23回駅長会議(平成28年11月21日)
- ・第24回駅長会議(平成29年1月23日)



第2回校正

■マップ作製研修

○まちの駅全国フォーラム inTOKYO
(9/30・10/1)

・「藤田とし子さんのマップ作り講座」

- ①まちづくり手法としてのマップ作りの基礎を学びます。
- ②まずは、市民目線でまちを取材し、強みと弱みを把握するまちの棚卸作業を行います。
- ③マップ作り作業を通じて地域の担い手の掘り起こし、市民・当事者の意識改革などを行う、ひとづくりのプログラムでもあります。



- 平成29年1月6日 校了
- 平成29年1月13日 完成品納品
- 平成29年1月23日 駅長会議各駅配布
- 平成29年1月30日
民友社、民報社へマップ宣伝広報新聞掲載申請
(平成29年2月1日掲載)
- 平成29年2月3日 FMポコマップ宣伝広報
(まちの駅ネットワークふくしま事務局
ふくしま情報ステーション所長 齋藤 美左子)

ネットワークセンター事業報告:

福島市市民活動サポートセンター

2016年度の福島市からの委託講座事業が終了した。「市民活動ステップアップ講座」「NPOマネジメント講座」「オープンセミナー(講演会)」の3本の柱からなる8講座だ。「NPOの基本講座」から始まり、「社会貢献でメシを食う」で終わるこの講座は利用団体の問合せや相談などの声をもとに実践向けに企画した。述べ参加人数は166名となり、多くの方にご参加いただいた。

自主事業としては、5つの企画からなる「まちづくりカフェ」は企業や活動団体から協力をいただき、工場見学や信夫山散策など好評価をいただいた。その他、実践講座「親子で楽しく学ぼう! お金の仕組み」では福島銀行さんの協力をいただき、子どもたちにお金の生み出す仕組みと流通を座学と体験で学んでもらうねらいた。

平成28年度実施事業

福島市委託事業

- 市民活動ステップアップ講座
 - ①NPO基本講座 ～チャレンジ! NPO～
 - ②イキイキライフセミナー
～何かを始めたい人のための講座～
 - ③税務・会計 初級講座
～苦手意識克服! 税務・会計～
- NPOマネジメント講座
 - ①助成金申請のコツ ～リアルな助成金活用とは?～
 - ②やる気スイッチ活用セミナー
 - ③ファンドレイジング(資金開拓)基本講座
～難しく考えない! ファンドレイジングとは?～
 - ④広報講座
～初心者でもわかる、伝わるやすい広報のコツ～

- オープンセミナー(講演会)
 - ①社会貢献でメシを食う
～時代の風雲児のつくり方～

まちづくりトークカフェ

- ①私とストレス～上手なストレスとの付き合い方～
- ②歴史薫る温泉郷を満喫!! いざ、いざか
- ③見て、聞いて、知る、食と健康! 工場つておもしろい!
- ④歩いて、聞いて、信夫山の魅力と歴史を感じよう!!
- ⑤認知症と介護を考える

他、実践講座や職員研修など7事業実施。



信夫山の魅力と歴史を感じよう!



登録団体連絡会

1年を振り返り、ご利用いただく方々や協力いただく皆さんの力によって福島市市民活動サポートセンターが成り立っていると強く感じる。

今後もたくさんの皆さんの体温や感情を大切にできるような事業や支援をしていきたいと、スタッフ一同、日々、学びの日々である。

今後ともよろしくお祈りします。

(福島市市民活動サポートセンター

チーフ 内山 愛美)



～広報講座～

ネットワークセンター事業報告:

ふくしま地域活動団体サポートセンター

ふくしま地域活動団体サポートセンターは中間支援センターの情報交換会、講座開催等をおして、福島県内のNPO法人の皆様をサポートしています。

【福島県 NPO のつどい】

2月2日(木)福島市の福島市市民会館第2ホールにて、「福島県NPOのつどい」を開催いたしました。情報交換会にご出席いただいている県内の地域活動団体中間支援センターの皆様をはじめとして、中間支援団体委託市町、権限委譲市町の行政の皆様、さらに福島県内よりNPO法人、任意団体、企業、NPOに関心のある行政、個人の方など71団体103名にご参加いただきました。

第一部では講師に認定ファンドレイザーの浅井美絵氏を迎え、資金調達を行う際にふとかがかかってしまう、「心のプレーキ」に焦点をあてたお話をいただきました。「お金をください」って言えますか?のタイトルしており、実はお金のことをうまく話すことができない方が多くいらっしゃることもあらためてわかりました。

第二部では2団体の方々に資金調達の事例発表をしていただきました。福島市の認定特定非営利活動法人パンダハウスを育てる会さんは、日本でも伝統的な募金箱による資金調達のお話しでした。自団体を知っていただくための広報や募金箱回収の返礼等を丁寧にわかりやすく行っていました。今後、更に募金箱を増やす計画を立て活動をすすめており、意識の高さを感じました。南相馬市の特定非営利活動法人つながっぺ南相馬さんは人と人のつながりと SNS を使った情報発信で活動の資金調達を行っていました。形は違えども自団体のミッション・ビジョンを理解して、活動を丁寧にわかりやすくすすめていくことがファンの獲得となり=資金調達につながるようです。

第三部では悪天候にもかかわらず当日参加の方も加わったことで、さらに熱い多様な主体による交流の場となりました。



多様な主体と笑顔で交流

多くの方のつどいの場になりました

【講座開催】

講座も県内各地で開催しています。会計をとおしてNPOへの理解のきっかけとしていただくことを目的に、スペシャリストのためのNPO会計基準講座を11月17日(木)に郡山市ミュージカルがくと館大ホールで行いました。

NPO会計基準に造詣の深い中村元彦氏を講師に迎え、税理士、行政書士、公認会計士、NPO法人の会計担当者など53名を迎えての開催でした。普段扱っているものとは違った内容に講座終了後も中村先生に熱心に質問をされていたのが印象的でした。

一人でも多く専門性の高い方に、会計という視点からNPOの理解を深めていただける一助となればと思える講座となりました。

12月22日(木)に 須賀川市民会館2階研修室にてNPO法基礎講座を行いました。

講師は一部、二部を福島県文化振興課主事横田雅之氏に、三部、四部を私が務めました。参加団体23団体、参加者37名、須賀川市をはじめ近隣の市町などの方にご参加いただきました。

1月13日(金)に 福島市市民会館301号室で、一般社団法人ふくしま連携復興センター事務局長の山崎庸貴氏を講師にお迎えしファンドレイジング・白熱教室を行いファンドレイジングについて丁寧にわかりやすくお話しいただきました。当日は悪天候でしたが、14団体16名の参加となりました。

すべての講座をとおして意識の高い参加者の姿勢に、私たちも学ぶことが多くありました。これからもさらにNPOの皆さんの活動のサポートとなる講座の開催をしていかなければと改めて感じました。



NPO 会計基準講座のようす

(ふくしま地域活動団体サポートセンター チーフ 野地 理恵子)

ネットワークセンター事業報告:

ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局

ふるさとふくしま交流相談支援事業では、「県外避難者支援事業」および「県内避難者・帰還者支援事業」という福島県の2つの補助金事業のうち、後者の「県内避難者・帰還者支援事業」で、昨年10月に第三次募集が実施されました。その結果、新たに県内で3団体が採択され、11月から事業を開始しています。これで当補助金事業では今年度、合計84団体(県内22団体・県外62団体)が避難者支援等の事業を実施していることとなります。



～団体訪問調査の様子(1)～

さて当事務局では、昨年10月から継続して実施しています「団体訪問調査」につきましては、北は青森県から南は沖縄県まで全84団体のうち、1月末現在で66団体の訪問調査を終え、同時進行で福島県に提出する調査報告書を作成している状況です。

そして、今年1月からは「中間報告書精査」の作業が始まりました。これは、各団体の報告書を3月期末に一括して提出するのではなく、10月までの前期の会計書類を、事前(1月)にご提出いただいて、事務局にて内容を精査し、修正改善点があれば各団体へフィードバックして訂正いただくもので、各団体への報告書類の適正な作成指導と3月期末直前の事務作業軽減を目的としたものです。この作業開始に伴い、事務局では新たに3名のパート職員を採用しました。結果、現在、ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局はスタッフ7名体制で事業にあたっています。

また2月からは、各団体の避難者支援活動を紹介

する「活動実績報告書(冊子)」の編集が始まり、4月上旬の発行に向けてこれから順次作業を進めていきます。



団体訪問調査の様子(2)

さらに事務局には、今年で7年目を迎える3月11日に向けて、各団体が実施する避難者交流会や追悼行事の情報も多数寄せられていて、ふるふくウェブサイトの交流会情報ページもにぎやかになってきています。

以上のように、ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局は、スタッフ全員の絶妙なチームワークのもと、3月期末に向けてフル回転で頑張っています!



※ ふるさとふくしま交流・相談支援事業ウェブサイト
<http://ff-shien.jp>

(ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局

チーフ 後藤 一光)